

令和元年度 熊本市公共交通協議会
第2回グランドデザイン改定・第2回バス路線網再編 合同部会議事録

I 日時等

1. 日 時：令和2年2月10日（金）午前10時～午前11時30分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室

II 主な内容

1. 開会

2. 議事

(1) 公共交通グランドデザインの改定について

(事務局)

資料1を用いて説明

(委員)

公共交通を利用しやすくするという意図はわかったが、バリアフリーについての記載がないようだが。

(事務局)

ご指摘のとおり、グランドデザインには記載していないが、個別の政策として熊本市公共交通網形成計画に記載している。そちらでカバーしたいと考えている。低床車両の導入率も進んでいるので、今後も推進していく。

(委員)

前回のグランドデザイン策定から年月も経過し、熊本地震もあり、桜町バスターミナルが開業するなど環境が変化している。特に熊本駅は大きく変化しつつあり、副都心という位置づけもされるときくが、この熊本駅については、前回のグランドデザインの記載とは変化がないように見受けられる。今後、人の流れも変化すると考えられるが、グランドデザインへの反映をどう考えるのか。

(会長)

熊本駅は、メインターミナルとサブターミナルの整備という位置づけのなかで、サブターミナルとして整備が進みつつあるが、グランドデザインのなかでどのように位置づけられるのか、もう少し具体的に説明してほしいとの質問である。

(事務局)

今後、熊本駅に駅ビルができると、人の流れは変化すると考える。中心市街地の2核3モールの1つとされている桜町のバスターミナルが整備され、もう一つの核である通町筋付近も含めて中心市街地と、今後、開発が進む熊本駅近辺を結ぶことは重要と考えていて、回遊性向上をめざす新たな公共交通に確立していきたい。

また、中心市街地に近い部分を公共交通利便向上区域という話をさせていただいたが、その中で公共交通を利用してもらうための取組をすすめる必要がある。

(委員)

熊本市内は交差点での渋滞しているところが多い。信号など、これらの改良については、県警との協議が必要だろうが、前回のバス路線網再編部会で報告されたICTを活用して分析されたバスの運行データなどを提供し、公共交通を優先的に通行できるようにすべき。

(委員)

グランドデザインを市民目線で考えると、買物や通院など使う側の目的を踏まえた視点があつたほうがよい。また、自転車についても記載が必要ではないか。記載は困難かもしれないが、カーシェアなどシェアエコノミーの反映も検討が必要と考える。

(事務局)

交通管理者との話し合いにおいては、公共交通と自動車交通をお互いどこまで優先とするかを協議したい。バス事業者からご意見もあがっている、バス優先レーンの導入についても、調整していきたい。

目的別の公共交通の利用のお知らせや、バス事業者やタクシー事業者と連携し、だれもが利用しやすくなる取組は必要と考える

自転車については、ご指摘のとおり、パークアンドライドのみならず、サイクルアンドライドについても記載する。レンタサイクルのみならず、シェアサイクルも取組として検討していきたいと考える。

そのほか、シェアエコノミーについても、相乗りタクシーが解禁されることもあり、タクシーをより公共交通に近い形で活用できないか、検討していきたい。

(部会長)

タクシーについては、公共交通の中でバスとの代替性のほか、ドアツードアのサービスをシェアすると利便性の高いものになりうるので、検討していただきたい。

バス利用時の目的地については、グランドデザインに記載することではないが、停留所ごとに主要目的地への行き方がわかるように検討してほしい

(委員)

市民の目線でグランドデザインをみると、郊外から市街地に入る際は、乗り換えることになり、利用者からすると乗換は面倒と受け止められるのではないかと。グランドデザイン案に必要な要素は、既に記載されているとは思いますが、乗り換えることにより、より市街地の移動の利便性が高まる、結果的に自分たちが高齢者になったときのインフラとしての公共交通が維持される、環境にもよい。といったことが具体的にわかるように市民に分かるように示すべき。エリア内均一運賃の例示もあるが、そのための具体的な施策を実施するということが、わかるようにすることが、市民にとって身近なベストミックスの構築になるのではないかと。

(事務局)

グランドデザインは、行政と市民が共有する公共交通の将来像となるが、より市民に分かりやすいものとする必要がある。わかりやすいものに工夫し、お示ししたい。

(2) 熊本地域公共交通網形成計画について

(事務局)

資料 2 を用いて説明

(委員)

バス路線網の再編の取組が進んでいて、感慨深く思う。以前は民間事業者と交通局がバラバラに取り組んでいて、当時の民間団体の提言でも、持ちバス会社、共同運行会社などの構想もあった。それが具体的な検討の対象になっていることが、感慨深い。市民にとっては、どんな会社があるかどうかではなく、一体的にバスサービスが提供されることが大事と考える。このバス停から目的地にはどのように向かえばよいか、ITを活用し自動的にわかるように、環状線を活かして取り組んでもらいたい。

(事務局)

バス路線網の再編は、まだまだこれからであるが、溝上部会長も挨拶で触れられたように、全国に先駆けて公共交通基本条例を制定し、グランドデザインを描いたといった取り組みが大事だと考える。また、今後の施策展開においては、できることから取り組んでいきたい。

(委員)

熊本市は防災関係で、SDGs 未来都市に選定されているが、SDGs の計画において、公共交通どのように位置づけられるのか。災害時における公共交通は重要で、熊本地震の時も一般車両によって交通が混乱したということもあるので、公共交通網形成計画にどう記載しているのか。

(事務局)

SDGs の計画では、公共交通についても記載されている。公共交通網形成計画においては、防災関係としての公共交通について、具体的な記載が難しいのだが、対応としては事業者とお話ししながら、災害後の復旧をどのようにすべきか各事業者において計画を策定していただいている。また、実際の熊本地震の際は、バスは道路状況などにより運行が混乱した面があるが、市電・鉄軌道は早期に機能するようになった。使える公共交通機関から、優先的に使ってもらうことが重要と考える。

(委員)

三つの成果指標のうち、公共交通を利用するという市民の割合はH30年度に減少しているが、その原因は。また、自転車の利用状況の変化は把握しているのか。

(事務局)

このアンケート結果についてだが、H30年度より、問いに対する選択肢が資料記載のとおり、変更となっていて、その影響があるかもしれないと考えている。今年

度の調査結果が年度末にでるので、併せて分析を行いたい。自転車の利用状況の変化は把握していない。

(委員)

熊本は平野部が多く、自転車は利用しやすい。白川沿いにちやりんぽ道が整備されたが、もっと活用してよい。加勢川沿いの江津塘や木部塘なども整備して活用してもよい。この点も計画に反映してもよいのではないか。また、都市計画道路の見直しについても公共交通の視点からの意見を反映すべき。

(事務局)

自転車関係においては、自転車の関連計画において、自動車道や駐輪場の整備を進めている。駐輪場を鉄軌道の駅などに整備することにより、公共交通の利便性を高めることは重要と考えている。

道路についても、公共交通と自動車交通のベストミックスを目指すために、両方の施策から対応していく必要があり、公共交通を優先的に通行するための検討もしていきたい。

(委員)

事業の実施状況のうち、15番のパークアンドライドについては、鉄軌道の整備と書いてあるが、どこが主体となって、整備されているのか。最寄りの鉄道駅で駐輪場が削減されて不便になっている例もある。

(事務局)

鉄道駅における駐輪場の整備については、事業者の敷地をお借りして、駐輪場整備をしている事例が多く、熊本駅のように、駅の開発計画と併せて駐輪場の位置が変更するなどして、ご不便をかけている場合もある。

(委員)

事業者の敷地がない駅でも利用者が多い例もあるので、必要に応じて市としても積極的に取り組んでもらいたい。

(委員)

事業者としても、駐輪場整備も含め、駅の利便性向上は熊本市とも連携して取り組んでいる。熊本駅においては、駅ビルの附置義務に対応する整備をすすめている。高架下の有効活用としても、西熊本駅など駐輪場整備をすすめている。違法駐輪対策等についても、熊本市の自転車対策室とも連携している。西熊本駅や上熊本駅においては、自転車の利用も進んでいることもあるので、個別の駅ごとに対応をしていきたい。

3. その他

(1) 県内バス電車無料の日の実施結果等について

九州産交バス今釜係長が 報告資料1にて説明

(2) 「熊本におけるバス交通のあり方検討会」成果報告について

高田委員が 報告資料2にて説明

(部会長)

その他、連絡事項等ないか

(事務局)

グランドデザインの改定については、今回頂いた意見の反映を部会長にご確認いただき、年度末の公共交通協議会にて報告したい。

また、公共交通協議会の開催については、3月26日の午前10時からを予定しており、改めて今月末に開催通知をお送りする。

(部会長)

本日の議事を終了する。